

ビスホスホネート投与および投与中止後の 骨芽細胞・骨細胞の組織学的変化

北海道大学病院

坪井香奈子(医員)

北海道大学歯学研究院硬組織発生生物学教室

長谷川智香(助教)・ 邱 紫璇(研究生)・ 網塚 憲生(教授)

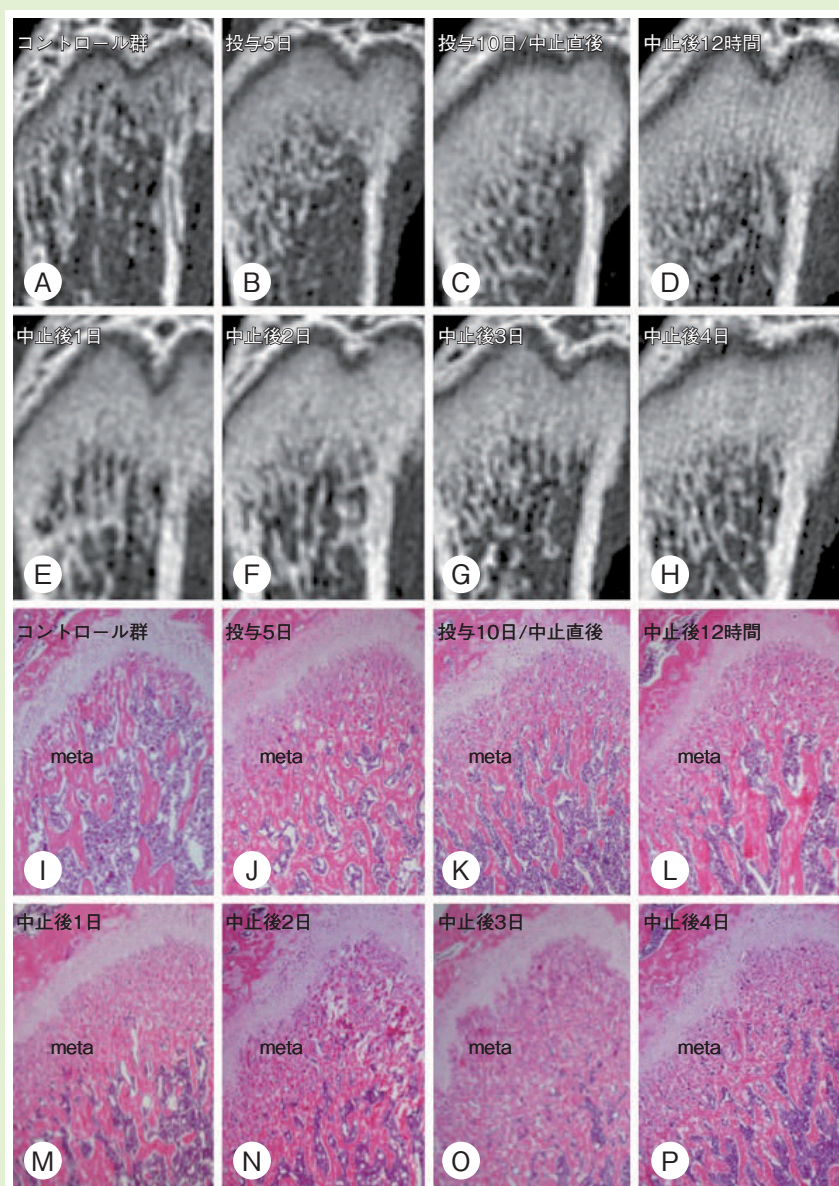


図1 アレンドロネート投与中止後の大腿骨におけるmicroCTおよび組織像

AおよびIはコントロール群を示す。アレンドロネート1mg/kgをマウスに連日投与し5日(B, J), 10日(投与中止直後: C, K), 中止後12時間(D, L), 1日(E, M), 2日(F, N), 3日(G, O), 4日(H, P)の大腿骨のmicroCT像(A~H)および組織像(I~P)を示す。アレンドロネート投与中止後に骨幹端(meta)の骨梁は減少しない。

(文献1)より改変引用)